

男女共同参画社会を目指して

## それぞれの男女共同参画 チャレンジストーリー

「チャレンジストーリー」では、個人・団体・企業の皆さんのチャレンジをご紹介します。起業、地域活動、働きやすい環境づくりなどさまざまな分野で広がる男女共同参画社会。それぞれの活動を参考に、皆さんも新しいチャレンジを始めてみてください。

団体

企業

個人

### Challenge! Story

#### ① 個人の取り組み

### 避難所で紙コップ授乳を紹介

産婦人科医 国際認定ラクテーション・コンサルタント\*  
所 恭子[とこそきょうこ]さん

\*母乳育児を成功させるために必要な、一定水準以上の技術・知識・心構えを持つヘルスケア提供者です。

赤ちゃんとお母さんに  
心強い存在。

所 恭子さん



「日中に避難所にいる方は、高齢者や慢性的に病気を持っている方でしたが、重症の方はいなかったので、医療

所先生もその一人で、市の保健師や医師会の医師と同道して5カ所の避難所を回りました。

東日本大震災で津波の被害を受けた日立市では、震災から1週間が過ぎた頃、24の避難所に700人あまりが避難しており、医師が避難所を巡回して診察を行いました。

産婦人科医の所恭子さんは、日立総合病院に非常勤医師として勤務しながら、母乳育児を推進する、NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会の国際認定ラクテーション・コンサルタントとして活動しています。

産婦人科医の所恭子さんは、日立総合病院に非常勤医師として勤務しながら、母乳育児を推進する、NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会の国際認定ラクテーション・コンサルタントとして活動しています。

産婦人科医の所恭子さんは、日立総合病院に非常勤医師として勤務しながら、母乳育児を推進する、NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会の国際認定ラクテーション・コンサルタントとして活動しています。

島沖で地震があったときに、母乳を飲ませているお母さ

「インドネシアのスマトラ

被災などにも有効なのです。

「日中に避難所にいる方は、高齢者や慢性的に病気を持っている方でしたが、重症の方はいなかったので、医療

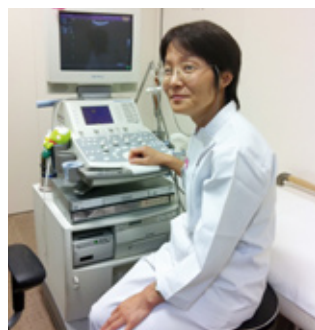
所先生もその一人で、市の保健師や医師会の医師と同道して5カ所の避難所を回りました。

東日本大震災で津波の被害を受けた日立市では、震災から1週間が過ぎた頃、24の避難所に700人あまりが避難しており、医師が避難所を巡回して診察を行いました。

産婦人科医の所恭子さんは、日立総合病院に非常勤医師として勤務しながら、母乳育児を推進する、NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会の国際認定ラクテーション・コンサルタントとして活動しています。

産婦人科医の所恭子さんは、日立総合病院に非常勤医師として勤務しながら、母乳育児を推進する、NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会の国際認定ラクテーション・コンサルタントとして活動しています。

産婦人科医の所恭子さんは、日立総合病院に非常勤医師として勤務しながら、母乳育児を推進する、NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会の国際認定ラクテーション・コンサルタントとして活動しています。



▲日立市内の産婦人科病院でも診療しています。



んへの支援の様子を聞きま

した。自分の地域が実際に被災したとき、紙コップでの授乳を薦めようと考えました。

避難所では哺乳びんを洗う水もほとんどなく、ゴムの部分は不潔になりやすいので、感染症が最も怖いので、こ

ういう方法があることを、今回も避難所で紹介しました」とい

た。所先生の今後の目標をうかがうと、「私自身、仕事をしながら3人の子どもを育てています。周りに支えられてきたし、楽しいこと、大変なこと

もありです。だからこそ、これから子どもを生む女性たちのサポートをしたいです

ね。子どもと仕事は両方とも大事なことだと思っ

で、それを二者択一しないで女性がいきいきと生きていけるように、社会や医療スタッフはどう対応していくべきかを考えていきたいです」と話されました。

◀哺乳びんを洗う水がないときは、紙コップで授乳を。

■カップ授乳の解説はこちらをご覧ください。 [http://www.jalc-net.jp/hisai\\_forbaby.pdf](http://www.jalc-net.jp/hisai_forbaby.pdf)

団体の取り組み

れんこん産地、  
浮島の女性グループ

ゴッドマザーRU会



開店前から近所のお年寄りや常連さんたちが集まってくる人気の直売所、「ゴッドマザー市」。この直売所を運営しているのが、ゴッドマザーRU(れんこん浮島の略)の皆さんです。稲敷市浮島地区の水稲・れんこん農家の女性を中心となって、平成10年に結成。農業や地域、農家生活の向上のために活動をしています。

直売所を開設したのは平成16年、毎週土曜日の午前10時から午後5時まで、れんこ

んをはじめ地場産野菜や手づくりの加工品を販売。オーブンのいきさつは、「東海村のJCO事故の際に、風評被害でれんこんの価格が大きく下落したのです。どうにかしなくてはとみんな考えて、市場出荷以外に浮島れんこんをもっと多くの人に知ってもらうために、れんこんを主にした直売所を始めましたと会長の黒沢文江さん。

直売所で販売を担当するのは当番制で、れんこん農家が忙しい収穫時期と、水稲農家が忙しい田植え時期は、会員が交代制を取っているそうです。最初は20人近くでス

タートした会も、高齢になつた方、農業をやめた方などが退会し、現在は10名で活動しています。

直売所の加工品の一番人気は、れんこんの「コロッケ」。「れんこんコロッケは他でもつくっているところはあるのですが、入っているれんこんの量が違います。私たちは会員がれんこん農家ですから、れんこんをたくさん入れられるんです(笑)。コロッケがあるんだからメンチもいじゃないかとメンチをつくり、生でも美味しいけど揚げてみてはどうかとれんこんチップもつくりました。最



直売所「ゴッドマザー市」を運営するゴッドマザーRU会の皆さん。

◀ 県道206号線沿いの店舗。午前中に多くが売り切れるほど人気です。



初はれんこんサラダとれんこんのまぜご飯ぐらいでいいかと思つたのが、どんどん広がって、ほとんどの商品が午前中で完売しています」と話す黒沢さん。

れんこんチップは平成19年度の県農産加工品コンクールで最優秀賞を受賞、れんこんコロッケは平成22年度の優秀賞を受賞。さらに、同会の宮本豊子さんの浮島だいこんの漬物が最優秀賞に輝きました。「現在ゴッドマザー市では主である浮島れんこんが、お客さんから口コミで広まり、県外からも買いにきてくれるようになりました。また消費者の皆さんと直接話ができるため、とても信頼されている」のだからです。

今後の目標は、「もっと品数を多くし、年間のイベントも効率よく考えて、売上に繋がりたいです。もう少し先の目標は、今は会員から野菜を集めているのですが、ゴッドマザー市の近くにRU会の畑があるので、将来的にはそこで自分達で数多くの野菜を栽培し、新鮮で安全でおいしいをモットーに商売していきたいですね。働き盛りの今は無理ですが、もう少し経って時間に余裕ができれば、やってみたいと思います」ということでした。頼もしいお母さんたちの直売所は、浮島のれんこんや農産物の素晴らしさを知らせる場であるとともに、お年寄りなど近所の皆さんの交流の場にもなっている温かい存在です。

◀ 稲敷市浮島地区は美味しいれんこんの産地。新鮮なれんこんと加工品が並びます。

## 事業所内託児所 「ベルワンキッズ」を開設

有限会社ベルワン



地方放送局、ひたちなか市役所勤務を経て起業。各部門を統括しながらご自身も、全国の自治体や民間企業において接遇やコミュニケーション研修の講師を務められています

有限会社ベルワン代表取締役  
武中 みどりさん



◀おいしい給食は武中さんが担当。

ひたちなか市にある有限会社ベルワンは、ブライダルやセレモニーマスターの企画制作、カルチャースクール講師派遣、企業や自治体の研修等を業務とし、さらにリラクゼーションサロンや整体スクールも運営しています。創業は平成10年、代表取締役の武中みどりさんが一人で立ち上げ、現在は従業員15名、そのうち14名が女性です。

事業所内託児所開設のいきさつは、女性が主戦力の職場ということもありますが、「女性に子どもを逃げ道にして欲しくなかった」という、働く女性の先輩としての武中さんの熱い思いがありま

す。そこで、「子どものために仕事をする時間が制限されるのなら預かれば良い、逃げ道をふさいじゃおう」と託児所をつくったんです(笑)」と言います。

託児所開設について県に相談し、助成金も受けられるようになり、昨年1月に本社の1階に事業所内託児所を開設。それまでもお子さんを連れて出勤する社員もいましたが、本格的な託児所のスタートとなりました。

「今年の9月から、社員以外の子どもの預かりも始めました。そこで、新たに保育士を採用し、3名が新たにスタッフに加わりました。養護教員の資格を持ったスタッフもすでにいましたし、私も食品衛生管理者の資格を取り、保育助手1名と合計6名体制でシフトを組んで対応しています」と武中さん。武中さんご自身も、来年度の保育士試験を受験するそうです。現在はさらに、社員以外のお子さんを9人まで預かれるように、届け出を出しています。

同社では、託児所以外にも女性が働きやすい環境づくりに力を入れています。「ほ

ぼ全員が女性なので、力を入れざるを得ないですから(笑)。たとえば運動会や家の用事、子どもが病気の時など、休むことで引け目を感じないように、週に一回は全員でミーティングをして意志の疎通を図っています。一人ひとりがはっきりと自分の状況を言うことで、全体の予定を調整する。みんな考えて行動しています」と話す武中さん。

必然にせまられて道を開いてきたという武中さんに見えてきているのは、「これからは、社員の家族の介護の問題が出てくると思います。もちろん、介護支援制度もつくっていきます」という力強い言葉。「社会に踏み出せる女性を増やしたい。幼稚園社会、お母さん社会の他にも生きがいを持って活躍できるさらに大きな社会があることをお母さんたちに知らせたい」、この思いが武中さんを動かす大きな原動力になり、魅力的な職場として成長を続けています。



▲事業所内託児所「ベルワンキッズ」は午前8時から午後7時までお子さんを預かり、年中無休。